

高齢者ボランティアと協働するソーシャル・キャピタル強化による自殺対策の推進に向けた研究 研究報告書 資料

「シニアボランティアが選んだ命の大切さを伝える絵本 50 選」

自殺予防のためのワーキング・グループでは、推薦絵本を以下のようにカテゴライズし、インデックスを施した。絵本によっては、当然のことながらカテゴライズしたテーマが重なり合うものもあり、重複したインデックスがついている絵本もあるが、用途によって上手に活用いただければ、幸いである。

自殺予防ワーキング・グループには、延べ60名を超える読み聞かせシニアボランティアが参加し、絵本読み聞かせインストラクターの指導の下、「命・つながり」に関する良書を集めてきた。その数は170冊にも上った。

以下、その中から激選された50冊の絵本と、インストラクターの推奨する10冊の絵本を巻末資料として掲載する。

「つながり」・・家族や友だち、関係性による励まし

「自己肯定感」・・そのままのあなたで良い、自信が生まれる

「いのちの大切さ」・・かけがいのない生命を再認識

「居場所」・・きみの居場所はいろんなところを見つけることができる

「相互理解」・・自分の理解が、他者の理解につながる

「自然からの学び」・・自然界や動物、目に見えないものから力をもらう

「挑戦」・・チャレンジすることの大切さ

1

あかちゃんがやってきた

作：角野栄子 絵：はたこうしろう

福音館書店 1998年10月発行

◆カテゴリー 「いのちの大切さ」「つながり」

◆キーワード つながり

◆時間 8分

◆あらすじ

ある日、おかあさんは、ぼくのみみにささやいた。「あかちゃんがうまれるの」。すると、ぼくは「えーっほん」と言い、ぼくはちょっとぷんとした。あかあさんのおなかは、ほんとに大きくなる。そしてぼくは、ごたいめんの日に…。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

お母さんは生命の誕生を息子を通して、楽しんだり、長男がお兄ちゃんになる不安、よろこび、そして命の大切さを感じたりします。この絵本を保育園で読んだ時、保育士さんが出産間近で、大きなお腹を抱えていました。そのため、園児たちは当時、先生のお腹をさわったり、声かけをしたりと楽しい時間を過ごすことができました。そして、先生にはふた子ちゃんが誕生しました。

2

あなたの小さかったとき

作：越智登代子 絵：藤枝つう

福音館書店 2002年3月発行

◆カテゴリー 「つながり」「いのちの大切さ」

◆キーワード 家族愛、つながり

◆時間 13分

◆あらすじ

私の小さかったときのものがいっぱい描かれている。今はたくさんnのことが当たり前に来るが、あなたは小さな力をたくわえ、一つ一つ身につけてきた。日に日に身に付く偉大な力。誰も教えたわけではないのに、寝返り、物につかまって立ち上がり、初めの一步を進めた。その目覚ましい力に生命の神秘を感じる。知らない幼い頃の日々が細やかに、やさしいパステルカラーで表現されており、心引かれる。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

大人になった後の苦しい時こそ、子供の頃の思い出が必要であると思わせる絵本である。各ページで表現されている細かい仕草に心打たれる。文句なく自分の子どもの頃に戻り、新鮮な気持ちを取り戻すことが出来る。寝返りをして物を取った時、物につかまってふらつく足をふんばって、立ち上がった時、拍手を送りたくなる。小さな子から力がもらえるだけでなく、自分が忘れていた事も一気によみがえってくる絵本です。

3

ありがとうフォルカー先生

作・絵：パトリスア・ポラッコ 訳：香咲弥須子

岩崎書店 2001年12月発行

◆カテゴリー 「相互理解」

◆キーワード 相互(障害)理解、支援、いじめ

◆時間 15分

◆あらすじ

トリシャは、絵を描くのと本を読んでもらうのが大好き。だけど、読めるようにはならない。字がくねくねした形にしか見えないんだもの。そんなトリシャは、いじめを受けるようになっていく。そんな5年生の時、フォルカー先生が赴任してきた。フォルカー先生は、トリシャの絵をほめ、からかう生徒を叱ってくれた。さらに、学習障害であることに気づいてくれた。国語の先生も加わって、字を読むための特訓が始まって…。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

人の出会って不思議です。フォルカー先生との出会いがトリシャの人生を変えていきます。もし出会わなかったら、トリシャは今も悩み苦しんでいるのでしょうか。でも、出会った！これは事実です。本当にあったことなのです。あなたはトリシャですか？エリックですか？フォルカー先生と同じ立場の人もいるでしょう。今、辛くても、明日を変えるためにフォルカー先生を求めてみませんか？ みんなにも多くのことを考えてもらいたい、そんな素晴らしい絵本です。

4

生きる

作：谷川俊太郎 絵：岡本よしろう

福音館書店 2007年3月発行

◆カテゴリー 「いのちの大切さ」

◆キーワード 命

◆時間 6分

◆あらすじ

生きるということは、今生きているということ。咽が渴き、木漏れ日が眩しいということ。あなたと手をつなぐということ。泣ける、笑える、怒れるということ。自由ということ。生きているということは、今が過ぎていくこと。すべての美しいものに会うこと。今地球が廻っているということ。人を愛し、あなたの手の温みを命という。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

森羅万象すべてが、生かされ生きています。その中に私たちの命もあって、一瞬一瞬の時の通過点をつないでいるのです。今生きている一瞬の命の大切さを、詩とともに絵からも読み取れます。

5

いつだってともだち

作：モニカ・バイツェ 絵：エリック・バトラー 訳：那須田淳
講談社 2000年6月発行

- ◆カテゴリー 「つながり」
- ◆キーワード 友情、信頼、話す
- ◆時間 7分
- ◆あらすじ

アフリカの大草原に沢山の象たちの群れの中に、小象のペノがおり、フレディというお互いに何を考えているのか、分かるほどの仲良しの友達がありました。そのフレディが遠くの草原に行ってしまい、ペノは悲しくて元気をなくしてしまいました。ふくろうのホレイカに相談に行くと、「悲しい時は我慢せずに泣き、悲しい気持ちを誰かに話す、心の中に友達の部屋を作る」ことを教えて貰いました。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

友だちとの別れという、何を考えているのかも分からないほどの悲しみの中、もの知りのホレイカに相談に行き、元気を取り戻したという部分に着目し、この絵本を選びました。自分が追い込まれたときに信頼できる相談相手がいるということに気づき、そして母親などにも自分の気持ちを打ち明けることが出来たということから、問題解決に至りました。そのメッセージにこそ大切な意義があると感じました。

6

いのちのおはなし

作：日野原重明 絵：村上康成
講談社 2007年1月発行

- ◆カテゴリー 「いのちの大切さ」
- ◆キーワード いのちとは時間、生きているということ
- ◆時間 13分
- ◆あらすじ

95歳の著者が小学校4年生に語った「いのちのおはなし」「いのちとはなにか」「いのちはどこにあるのか」の問いかけ。それぞれ考えさせます。「これから生きていく時間。それが君たちのいのち」とまとめています。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

日野原さんは、外国を含めて100校近い学校を訪問し、「いのちの授業」を行っています。冒頭の詩「海辺の時間」から最後の「いのち」まで、詩の解釈は人それぞれ違いますが、いのちの大切さや、家族のふれあい、平和を望む気持ちなどが、ゆっくりと温かく伝わってきます。5分程度で読み終わってしまうほどの小さな本ですが、内容は大きく、深みがあります。

7

いのちのまつり

作：草場和壽 絵：平安座資尚

サンマーク出版 2004年10月発行

◆カテゴリ 「つながり」「いのちの大切さ」

◆キーワード 命、つながり

◆時間 6分

◆あらすじ

初めてこの島に来たコウちゃんは、石のお家の前で歌った、り踊ったりしている人たちを見てびっくりします。島のオバアから「ご先祖さまのお墓参り」と聞いていて、またびっくり。「ぼうやに命をくれた人は誰ね〜?」。オバアに尋ねられ、コウちゃんは考えます。そして、数え切れないご先祖さまから命をもらっていることと、ぼくのあとずっとずっとつながっていくことに気づかされます。そして、いのちをありがとう。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

自分のいのちは、突然与えられたものではない。「数えきれないご先祖さまがだれ一人かけても生まれてこなかった」いのち。遡っていくと、他者のいのちともつながっていきます。いのちの神秘、いのちの尊さが語られています。仕掛け絵本に描かれているご先祖さまの数が圧巻です。自分はこれだけ多くの人に支えられているのだと視覚に訴えてきます。絵も親しみやすく、似ている人を探してみたいくなる絵本です。

8

いのちは見えるよ

作：及川和男 絵：長野ヒデ子

岩崎書店 2002年12月発行

◆カテゴリ 「いのちの大切さ」

◆キーワード 命、愛

◆時間 15分

◆あらすじ

目に障害のある夫婦の全盲の女性が出産することになった。近所の人、病院の医師、看護師らに励まされ、無事出産した。すると、へその緒でつながった命が目が見えない母親には見えるという。感じたり考えたり心臓が動いているそのことが命ではないのか。人間は助け合って心をつなぎあつてこそ生きられる存在である。それも、“みんな命のおかげ”である。赤ちゃんを抱いた母親の語りかけが、子どもたちの胸に響きます。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

人は、自分がどうやって命を授かったかをほとんど意識していない。目が見えない命は多くの人々の支え、励ましによって生きられるものだ。命って何だろうと、親からつながった命を意識し、自分を大切に生きようということを教えられる。

9

「いる」じゃん

作：くどうなおこ 絵：松本大洋

スイッチ・パブリッシング 2017年7月発行

◆カテゴリ 「自然からの学び」「つながり」

◆キーワード 生、仲間

◆時間 10分

◆あらすじ

地球がひとりだった頃、淋しくて仲間が欲しかった。海、山、野原と地球は、仲間をいっぱい生んだ。ぼくも地球の真似をする。太陽が光で葉っぱや虫、風、雲を生み、賑やかになる。ぼくはひとです。からっぽの手は、つなぎあいたいのだ。ここはつなぎ合う手を夢みたいなものだ。ぼくが笑えば地球も嬉しくて笑うに違いない。地球はぼくを抱いてくれる。ぼくも地球を抱いて歩きはじめよう。仲間いっぱい「いる」じゃん…？

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

先ず、題名が気に入り、読んでみた。生をテーマに哲学的な詩の本である。地球上に住んでいることや、太陽に挨拶ができる幸せなど、他者理解を促してくれる詩である。人はひとりでは生きてゆけない、仲間がたくさんいるじゃん、というメッセージが爽やかな読後感を抱かせてくれる。

10

ウエン王子とトラ

作・絵：チェン・ジャンホン 訳：平岡 敦

徳間書店 2007年6月発行

◆カテゴリ 「つながり」「自然界からの学び」

◆キーワード 信頼

◆時間 8分

◆あらすじ

昔、深い森の奥に住むトラの母親は、子どもを獵師に殺された恨みの為に人里を襲うようになった。王様がトラ退治を試みるが、占い師の助言により、自分の子どもウエン王子をトラに差し出すことにした。ウエン王子はトラを恐れず、トラも自分の子供としてウエンと仲良く暮らすようになる。王様はウエンを心配して兵を出し、彼の安否を確かめる。成長したウエンはトラを説得して、王になる為に人間の生活に戻るが、毎年トラに会いに来た。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

トラも人も、自分の子どもを思う気持ちに変わりはない。トラはときに自分の子どもを守るために、口にくわえて移動する。それほど大切に育てながらも獵師に殺された恨みが、トラの遠吠えとして悲しそうに響き渡る。その悲しみがウエン王子の勇気で癒されていく様子が中国作家のチェン・ジェンホンの水墨画的画法で美しく描かれている。トラと人間との交流を、中国ではトラに育てられた赤ちゃんがいるとの伝説で紹介している。

11

海のいのち

作：立松和平 絵：伊勢英子

ポプラ社 1992年12月発行

◆カテゴリ 「自然からの学び」「いのちの大切さ」

◆キーワード 命、自然、文学

◆時間 12分

◆あらすじ

「ぼくは漁師になる。お父といっしょに海にでるんだ」という太一にとって、海と父親の背中には憧れです。ある日、潜り漁師の父は、巨大なクエに鉾を刺したまま息絶えていました。太一は与吉翁に弟子入りし、漁で生計をたてる漁師の生き方を学び、数年後、与吉翁から「太一ここはお前の海だ」と言われ、独り立ちする。一方、母親は独り息子が「父の死んだ瀬にもぐる」といつ言い出すか、心配を募らせる。瀬にもぐり続けて一年目、太一は巨大なクエを見つけて…。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

海に生きる少年の成長を問いかける立松和平文学と伊勢英子の画を楽しめる感動の絵本です。中学校で読み聞かせした時、海の絵の美しさに「物語の世界がより伝わってくる」、そして「クエを海の主(おとう)。海を天国と見たてる」と感想に書いてくれた生徒たちの感受性にびっくりしました。ひとり息子が父親と同じ危険な生き方をするという母親の悲しみを背負いながらも、父の果たせなかったクエとの決着をつけようとする海の男の意地は果たして…。

12

おたんじょうびおめでとう

作・絵：バット・ハッチンス 訳：わたなべしげを

偕成社 1980年11月発行

◆カテゴリ 「つながり」「自己肯定感」

◆キーワード 家族愛、つながり

◆時間 3分

◆あらすじ

サムくんはお誕生日を迎えお父さんお母さんからポットのおもちゃをプレゼントされました。でも、サムくんは小さくて洗面台にとどきません。そこへおじいちゃんから素敵なプレゼントが届きました。毎日の生活がとても楽しくなる役に立つプレゼントは、小さな椅子でした。それによって、自分で自分のことが出来るようになり、生き生きと毎日を送ることが出来ました。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

作者の次男の成長の日々を描いている作品です。幼児の心理と成長過程がとてもほほえましく温かい気持ちになります。

13

おばあちゃんがいるといいのにな

作：松田素子 絵：石倉欣二

ポプラ社 1994年11月発行

◆カテゴリー 「つながり」

◆キーワード 家族愛、つながり

◆時間 7分

◆あらすじ

家の中にいて家族を守ってくれている。いるだけでいい。会話をしなくても。心の中全部を理解してくれる。拾ってきた木の実も全部大切にとっておいてくれる。遊びに夢中になっていてふと家の中を見ると、時間をゆっくり楽しんでいる。そんなおばあちゃんが癌になり、大切なお乳を切った。すっかり弱ってしまったけど、生きていてほしい。でも、「さよなら」も言わず死んでしまった。いなくなってさらに、おばあちゃんが恋しい。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

核家族の中でも、祖母とたまに会えば、通じ合えるものがある。成長ともに、親には理解されなくなっても、祖母は無条件で受け入れてくれる。しかも、宿題のことも勉強のことも触れない。良い所を高く評価してくれる。我が家でも時々、訪れる孫には何でも許し、好きなように過ごさせる。食事も好きなものをたっぷり食べてもらう。大好きなお風呂も楽しみの時間として演出する。自然体の祖母の姿は、孫の中に印象づけられると思う。

14

おへそのあな

作・絵：長谷川義史

B L出版株式会社 2006年9月発行

◆カテゴリー 「つながり」

◆キーワード つながり

◆時間 8分

◆あらすじ

小さな、小さな、赤ちゃん、おかあさんのおへその穴から、家族ひとり、ひとりがみえる、みえる、きこえる、きこえる、かぜのおと、なみのおと、とりのこえ、はなのさくおと、おなかの赤ちゃんは、げんき、家族みんなで誕生を楽しみにまっています。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

生命の誕生、家族中で生まれてくる赤ちゃんを待つ神秘的な世界をユーモアに描いている。孫に、この本を読んであげると、おかあさんのお腹の赤ちゃんに向かって、自分も逆さのような体勢で話しかけるようになりました。そんな子も今では、弟が生まれ、やさしいお姉ちゃんをしています。

15

オレゴンの旅

作：

ラスカル 絵：ルイ・ジョス 訳：山田兼士
セーラー出版 1995年12発行

◆カテゴリー 「つながり」

◆キーワード 信頼

◆時間 8分

◆あらすじ

サーカス団の道化師デュークは、オレゴンという名のクマと友達になりました。ある晩、オレゴンがデュークに大きな森まで連れてってと言いました。まるで童話のなかの出来事のようにオレゴンの言葉が判ったのです。デュークとオレゴンはアメリカの東にあるピッツバークから西のオレゴンまでヒッチハイクを繰り返しながら旅を続け、ついに夢見ていた森にたどりつきました。そして、デュークも新しい旅に出ることになりました。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

道化師デュークは、サーカス団で働きながら、クマのオレゴンの故郷の森の奥で暮らしたいという気持ちを理解しました。そして、オレゴンの幸せを考えて、二人で旅に出ることになりました。人間とクマが心を通じ合わせて広大なアメリカを旅します。旅ではマイノリティの人達からの助けがありました。アメリカ人のやさしさや自然の豊かさが表現された絵本で、本当にありそうな話として描かれています。デュークの将来も明るいものであると予感させてくれます。

16

からすたろう

作・

絵：やしまたろう
偕成社 1979年5月発行

◆カテゴリー 「相互理解」

◆キーワード 尊厳、誇り

◆時間

◆あらすじ

小学校に山奥から通ってくる一人の男の子。その子はいつも、同級生やみんなからからかわれたり、無視されたりしていましたが、学校を休むことはしませんでした。その子の担任の先生が声をかけて、その子の得意なことを見つけました。卒業式の日はその得意とする「からすの鳴き声」を披露しました。大人になって、同級生と会ったときは、より堂々としていた。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

読み終わったときに子どもの中からほっとした空気が流れていた。「学校で辛かったこともあるのにちゃんと大人になって偉いね」「自分にしかできないことを見てくれた先生がいてくれてよかったね」「褒められたことを大事に心にしまっているいい思い出にしているね」と感じたのだろうか。からすたろうが卒業式でいろんな鳴き声をした時、学校に来る道が大変なのに学校が好きだったんだなと思った。

17

きりのなかのほりねずみ

作：ユリー・ルシュティン 絵：ゲイ・ゴズロフ 絵：フランチェスカ・ヤルブーヴァ 訳：こじまひろこ

福音館書店 2000年10月発行

◆カテゴリー 「つながり」

◆キーワード 友情、いたわり

◆時間 15分

◆あらすじ

友だちのこぐまくんの家でお茶を飲んで星を数える約束をしたハリネズミ。行く途中、霧の中に浮かぶ白い馬を見つけ霧の中に入っていく。迷子になり、怖い思いをしながら、多くの動物たちに助けられ、やっどこぐまくんとお茶を飲んでおしゃべりをききながら、こぐまくんと一緒にいいな、とハリネズミは思うのでした。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

いつも一緒にの友達とお茶を飲みながらきく、なんとゆったり過ごせる幸せな時間。長年の友達がそばにいてくれる幸せ。そんなことを思い、幻想的な絵と文を楽しみながら、友情の大切さを感じてほしい。

18

くった のんだ わらった ポーランド民話

再話：内田莉莎子 絵：佐々木マキ

福音館書店 1977年4月発行

◆カテゴリー 「挑戦」

◆キーワード 諦めない、何とかなる

◆時間 7分

◆あらすじ

ヒバリの夫婦は、モグラが巣のそばを掘り返すので卵をだいていられない。オオカミにモグラを追い払ってくれるように頼むが、オオカミは「たらふく食わせてくれたら」「ビールを思いっきり飲ませてくれたら」「思いっきりおかしいものを見せてくれたら」と、次々に注文を出す。ヒバリは「きっとなんとかなるでしょう」とその都度、オオカミを満足させて、モグラを追い出してもらった。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

困難なことや無理難題に、知恵を使って向かっていく様子が楽しく描かれている。

19

コバンザメのぼうけん

作：灰谷健次郎 絵：村上康成

童心社 1996年7月発行

◆カテゴリ 「自己肯定感」

◆キーワード 成長、自立

◆時間 12分

◆あらすじ

仲良しのクジラから“もっとセケンをしらなくてははいけないよ”と言われ、コバンザメは”セケン“を探す旅に出ます。大きな魚にからかわれげんきをなくしているタツノオトシゴに”心が疲れたんだね“とコバンザメは優しく慰めます。久しぶりに会ったクジラから”いい顔しているな“といわれたコバンザメ。その後の”セケン“探しの旅で、多くの仲間に出会い、多くの体験をして…。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

友達を思いやる心や生きていくためには助け合いが大切といったことが伝わればと思います、この絵本を選びました。魚たちの会話が面白いので、子どもたちは真剣に聞いてくれます。

20

鹿よ、俺の兄弟よ

作：神沢利子 絵：G・D・バヴリーシン

福音館書店 2004年1月発行

◆カテゴリ 「自然からの学び」「つながり」

◆キーワード 自然、命、家族

◆時間 12分

◆あらすじ

シベリアの針葉樹林帯に暮らす先住民の狩人。男は鹿の皮の服を着、鹿の皮の靴を履いている。それは自らが作り、鹿の腱を糸にして縫い合わせたものだ。そして、鹿の肉を食し、暮らしている。「だから」と男は言い、「おれは鹿だ」と口にした。男は子どもころ、森の中で眠っていて、母鹿に小鹿のように愛された経験がある。しかし、ずっと昔から連続と続く生活は、鹿の命なくては考えられない。だから、彼も家で待つ妻子のために鹿を撃つのだ。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

狩師が鹿を撃つのは、鹿を憎んでいるからではない。自分と自分の家族が生き永らえるためには、鹿の命が必要なのだ。鹿は自分の兄弟であると言っているにもかかわらず、狩りの時には思いがけない鹿の抵抗にあうかもしれない。そのために命を落とすこともあるだろう。自然に生きる者の過酷な生活の中では、命の大切さは人間も動物も同じだ。

21

世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ

編：くさばよしみ 絵：中川 学

汐文社 2014年3月発行

◆カテゴリー 「その他」

◆キーワード 本当の豊かさ

◆時間 10分

◆あらすじ

2012年、ブラジルのリオデジャネイロで、環境が悪化した地球の未来についての国際会議が開かれた。ウルグアイのムヒカ大統領は、世界で一番貧しい大統領ではあったが、地球の現状は人が豊かさを求めた結果、大量生産と無駄な消費を繰り返す欲深さが支配する世界であり、地球環境を悪化させていると喝破した。そして、社会の発展が人間の幸福を損なってはいけない、私たち自身の生き方を変え、人類の幸福を目指したい、と訴えた。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

国際社会は大国(軍事強国)の支配する社会で、二千年以上昔から変わらない世界でもあった。力の背景なしに国際ルールを決めることは困難で、アメリカファーストなる言葉も出てきている。しかしその一方で、ムヒカ大統領のように正しい意見を述べる人達も出てきているし、ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)のようにノーベル賞を受ける団体も出てきている。世界の富の大部分を一部の人が持つ時代は長くないかもしれない、という期待を抱かせてくれる一冊である。

22

ぜつぼうの濁点

作：原田宗典 絵：柚木沙弥郎

教育画劇 2006年7月発行

◆カテゴリー 「つながり」「いのちの大切さ」

◆キーワード 命、希望、つながり

◆時間 12分

◆あらすじ

昔むかしのひらがなの国でのお話。ある日<ぜつぼう>の<せ>についていた<せ>の濁点は、主の「もうだめだ、もうだめだ」の嘆きに同情し、道ばたに捨ててもらおう。その濁点をめぐって「や」行の村は大騒ぎ。<おせ>の濁点がこの濁点を<し>の沼に沈めることでこの椿事を収めようとする。濁点は、主の嘆きで深い深い孤独のなかに沈んでゆく。そして、濁点は主を救い出したのだから、「これでいいのだ」とつぶやく。そのつぶやきは「…」の三文字となって漂う。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

ことばあそびを巧みに原田宗典が昔話に仕立てた絵本です。小学6年生、中学1年生にお薦めの絵本で、「希望」「絶望」が何かを問いかけてくれます。ひらがなの世界では濁点がつくことで「せつぼう」が「ぜつぼう」に。「きぼう」が「きぼう」に変わり、意味は大きく変化する。しかし、人の心はそう単純ではない。「いのち」「つながり」の観点から見直すと、この絵本がより役に立ちます。

23

だいじょうぶ だいじょうぶ

作：絵：いとうひろし

講談社 1995年10月発行

◆カテゴリー 「つながり」

◆キーワード 大切な言葉かけ、寄り添うこと

◆時間 15分

◆あらすじ

おじいちゃんは、ぼくがいじめられても「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と言ってぼくの手をにぎってくれます。おじいちゃんとぼくは仲良し。でも、ある日、おじいちゃんは入院してしまいました。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

おじいちゃんと孫のやさしい会話から伝わってくるもの。孫を見守るおじいちゃん、年をとったおじいちゃんを心配する孫。2人のあたたかい交流風景が伝わります。

24

たいせつなきみ

作：マックス・ルケード 絵：セルジオ・マルティネス 訳：ホーバード豊子

いのちのことば社 1997年10月発行

◆カテゴリー 「自己肯定感」「つながり」

◆キーワード 君のままで良い、自信

◆時間 15分

◆あらすじ

彫刻家を作った木の小人達は、良いお星さまシールとダメシールを付けあって暮らしていました。ダメシールばかり貼られているパンチネロは、自信をなくしていきます。しかし、彫刻家の言った言葉に救われます。「おまえが私の愛を信じるなら、シールなんてどうでもよくなるんだよ」。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

周囲の言葉に左右され自信を無くし、自分はダメなのだと思ってしまったとき、だれかのやさしい言葉かけ、かづけてくれる言葉は、自分だってよいところがあるんだ、出来るんだと勇気を起こさせます。

たいせつなこと

作：マーガレット・ワイズ・ブラウン 絵：レナード・ワイズガード 訳：うちだややく
フレーベル館 2001年9月発行

◆カテゴリー 「自己肯定感」

◆キーワード 自己肯定、自尊心

◆時間 5分

◆あらすじ

スプーンは食べるときに使うもの。スプーンにとって大切なのは、それを使うと上手に食べられるということ。そのように、次々と日用品や自然、食べ物の役割が書かれる。物にはそれぞれ目的や役割がある。本当に大切なことは何なのか、と問うた最後のページには「あなたがあなたであること」と描かれている。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

本当に大切なことは何なのかと問い、あなたはありのままのあなたでいればいいんだと励ましてくれる。気持ちに迷いが生じた時に、心を落ち着かせてくれる絵本である。

だんろのまえで

作・絵：鈴木まもる
教育画劇 2008年10月発行

◆カテゴリー 「自己肯定感」

◆キーワード 休養、助言

◆時間 5分

◆あらすじ

道に迷っていると、大きな木にドアがあった。それを開けると、中から「寒いからお入り」という声が聞こえた。うさぎが暖炉の前におり、「疲れたときは休めばいい じっとしていれば元気になるさ」と言う。ここが好きだと言うと、うさぎは「好きになるのが一番さ、好きなことがあれば大丈夫」と答える。暖炉の火の暖かさに癒され休むことが出来、目覚めると窓から光が差しこみ、お日様に向かって元気に駆けて行く。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

「疲れたら休めば良いんだ 無理しないでじっとしていれば元気になるさ」「好きになるのが一番さ。好きになる気持ちがあればどこでも大丈夫 好きなことがあればどんな時でも大丈夫」という文章に感動しました。中高生を指導している先生から、学生に読んでもらいたいという言葉頂きました。

ちいさいきみとおおきいぼく

作：ナディーヌ・ブラン・コム 絵：オリヴィエ・タレック 訳：磯みゆき
ポプラ社 2013年11月発行

◆カテゴリ 「相互理解」

◆キーワード 愛、つながり、思いやり

◆時間 10分

◆あらすじ

丘の上の大きな木の下に大きいオオカミがずっと一人で住んでいた。ある日、そこへ小さなオオカミがやってきて、一緒にご飯を食べたりするようになった。ところが、小さなオオカミがどこかへ行ってしまった。さびしいという初めての気持ちに戸惑いながら、必死で探す大きいオオカミ。探しながら大切なことに気づいていく心温まる物語。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

大きいオオカミは小さいオオカミに会ってよかった、大きいオオカミが一生懸命探したことを小さいオオカミにはわかっていたのかしら、小さいオオカミはどこにいったの、と読みながら思っていたら、やっぱり大きいオオカミのそばに戻ってきて、ホッとしました。自分だったら小さいオオカミを優しく迎えられたかな、やっぱり一人より友だちがいたほうが淋しくないな、と思いました。人は一人では生きていけない、必ず誰かと関わっている、誰かに必要とされ、誰かを必要としている、ということを感じてほしくて、選書しました

てん

作・絵：ピーター・レイノルズ 訳：谷川俊太郎
あすなろ書房 2004年1月発行

◆カテゴリ 「自己肯定感」

◆キーワード 受容、指導、成長

◆時間 4分

◆あらすじ

お絵描きの授業で何も描けなかったワシテ。先生の指導でやっと一つの点を描く。さらに先生に言われてサインをして出すと、それは額に入れられて貼り出された。驚いたワシテは、点ならもっといいのが描けると、いろいろなカラーのいろいろな大きさの点を描く。それは学校の展覧会に飾られ、評判になる。そして、やはり描くのが苦手な男の子に今度は、自分の経験したことを指導することになった。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

余白の多いシンプルな絵、あっさりした語りの文から伝わってくるメッセージは、読む人、聞く人、見る人の心の中にゆったりとした想像の世界を広げてくれる。ワシテは仕方なく描いた一つの点が額に入れられ、飾られたことに驚き、自由と自信を獲得した。今自分にできることを表せばいいのだ。そこに自分がいて、そこから自分の世界が広がっていく、という真理が伝わってくる。学校で描く絵はこうあるべきという固定観念を打ち破ろう！

どうぶつさいばん ライオンの仕事

作：武田津実 絵：あべ弘士

偕成社 2004年8月発行

◆カテゴリー 「自然からの学び」「いのちの大切さ」

◆キーワード 自然、命、群れ

◆時間 10分

◆あらすじ

タンザニアの草原。ヌーの群れを襲う雌ライオン。襲われたのはヌーのお母さん。襲ったのはライオンのお母さん。翌日に召集された草原の裁判でヌーの子どもはライオンの非道を訴える。ライオンはヌーが「私を食べて」と言ったと答えた。証人は、病気の動物は群れのためには命を投げ出すこともあると語った。病気は群れ全体を破滅に追いやるとい証言であった。裁判の結果、ライオンは無罪となった。しかし、親をなくしたヌーの気持ちをわかってあげようという提案がなされた。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

証人の一人、モンゴルの羊飼いの老人が言う。「私たちにはオオカミが一番の敵です。オオカミの子供はすべて殺すが一頭は残しておく。病気の羊を食べてくれます」。病気の流行はこわいし、自然の掟は厳しい。しかし親をなくした子どもの気持ちをわかってあげようとの言葉に情を感じた。

ともだち

作：谷川俊太郎 絵：和田 誠

玉川大学出版部 2002年11月発行

◆カテゴリー 「つながり」

◆キーワード 友情、つながり

◆時間 6分

◆あらすじ

友だちの形は、いろいろある。友だちって、友だちなら、一人ではどんな気持ちかな。けんかしても、友だちは友だち、会ったことがなくても、誰だって一人ぼっちでは生きていけない、友だちってすばらしい。それぞれのテーマのなかで、友だちとのふれあいが心にしみる。改めて昔からの友、今の友、これからつながる新しい友に心をはせる。胸膨らむ希望も、友により力も倍になる。自分の分身みたいなものかもしれない。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

何と言っても、人は一人では生きていけない。心の支えが必要だ。それが身内とはちがうところで自分を支えてくれる、友の存在は大きい。うれしい時、苦しい時、いつでも自分を支えてくれる。一人ではないんだ。離れていても、心の中にいてくれる人は大切だと思う。今までの友とは別に、新しい出逢いもあると思う。その中が広がれば、今までの自分をもっと大きくしてくれるのが、ともだちだと思う。

31

ともだちや

作：内田麟太郎 絵：降矢なな

借成社 1998年1月発行

◆カテゴリ 「つながり」「他者理解」

◆キーワード 友だちさがし

◆時間 8分

◆あらすじ

森一番のさびしがり屋のキツネは、「ともだちや」という商売を始めることにしました。代金は1時間100円。それで友だちになってあげるのです。クマを相手にいろいろなことして代金をもらいます。次に声をかけられたのは強面のオオカミ。お代をもらおうとすると、「友だちからお金を取るのか」と叱られます。ほんとうの友達の意味に気づいたキツネは、オオカミともだちになり、明日も明後日も遊ぼうと約束します。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

「えーっ！友だちや」「商売になるんだ」という驚きに満ちた子どもたちの顔。そんな好奇心から真剣な表情へと変わり、物語の世界に引き込まれていく様子がよく分かります。奇抜なアイデアと目を引くコスチューム。主人公のキツネも魅力的に描かれています。強面だけど人の良い大らかなオオカミのギャップも楽しい。「友だちはお金じゃない」というメッセージは、年齢に関係なく受け入れられるのではないのでしょうか。

32

どんぐり

作・絵：エドワード・ギブス 訳：谷川俊太郎

光村教区図書 2014年2月発行

◆カテゴリ 「自然からの学び」

◆キーワード 自然、思いやり

◆時間 5分

◆あらすじ

地面に落ちた小さなどんぐりがいろいろな動物に食べられそうになるが、そのたびに「お願い、今は食べないで、今にもっと大きくなるから」という。すると、みんな別の食べ物を探しに行きます。大きくなるまで我慢したカシの木は、どんなに大きくなったのでしょうか。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

いろいろな動物が登場します。絵本の最後に仕掛けがあり、大きな榎の木が両面・上面いっぱい広がります。その時、子どもたちは手をたたいて大喜び。元気が出る絵本です。

どんぐりのき

作・絵：亀岡亜希子

PHP 研究所 2008 年 8 月発行

◆カテゴリー 「居場所」「自己肯定感」

◆キーワード 居場所、受容、自己肯定

◆時間 6分

◆あらすじ

初めての実を付けたどんぐりのきは、まずくて食べられないと言われ、すっかり自信をなくす。数年後、一匹のリスがこの木を気に入って、家を完成させる。ある日、お客に来たリスたちが、この木は実を付けなし、付けてもまずいらしいと話していたので、主のリスは強く抗議する。どんぐりのきは、このリスも出ていくのだろうと元気をなくすが、「実を付けようが付けまいが、あんたが好きだ」という言葉に慰められて、その秋、おいしい実を付けた。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

長所も短所もありのままを受け入れてくれる存在を得ることで、自尊心を持って心を開いていきいきと生きることができる様子が描かれている。

どんなかんじかなあ

作：中山千夏 絵：和田 誠

自由国民社 2005 年 7 月発行

◆カテゴリー 「相互理解」

◆キーワード 相互理解、障害

◆時間 5分

◆あらすじ

目が見えないまりちゃん。耳の聞こえないさのくん。どんな感じが知りたくて、目をつぶったり、耳をふさいだりしてみたら、たくさんのに気づいた。すごいんだね。両親のいないきみちゃんは、淋しいんだろうな。ある日、きみちゃんがこういった。「動けないってすごいんだね。いつもの百倍くらいいろんなことを考えたよ」。ぼくってすごいんだ。からだの動けないぼくは、今日も考えている。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

シンプルではっきりした絵から、登場人物たちの優しさが伝わってきます。誰だってみんな違うところを持っています。その違いを理解しようとすることは、とても大事です。そして、「すごいんだね」とみんなが言えたら素晴らしいことでしょう。この絵本を読んで、まずは「どんなかんじかなあ」とこの作品のヒロ君と同じように考えることから始めてみてほしい。

花さき山

作：斎藤隆介 絵：滝平二郎

岩崎書店 1969年12月発行

◆カテゴリー「相互理解」「つながり」

◆キーワード 自己犠牲、兄弟愛

◆時間 6分

◆あらすじ

あやが山に山菜採りに出かけ、山んばに出会う。すると、不思議な事が次々と起こる。山一面に見た事のない花が咲いた。その花は、村の人が優しい事をするとう咲く花だった。あやも妹の為に祭りに着る着物を我慢して、赤い花を一つ咲かせていた。この事をお父もお母も誰も信じてくれなかったが、あやは時々、花さき山に行くたびに、自分の花が咲いていると思う事があるのだった。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

現在は、人と人の繋がりが希薄になり、自分だけ良ければと思いがちな時代です。この本は、他の人の為に犠牲になり我慢する、貧しい頃の民話の様なお話で、人の心の中には他の人を思いやる優しさや心の豊かさが溢れていることを描いています。あまり苦労しなくても思い通り、何でも手に入る豊かな時代だからこそ、失ってはいけない大切な事があるのです。今こそ求められる一冊ではないでしょうか。

レオ・バスカリアのパラダイスゆき9番バス「もっと素敵な自分」への出発

作：レオ・バスカリア 絵：葉 祥明 訳：近藤 裕

三笠書房 2000年3月発行

◆カテゴリー「自己肯定感」「つながり」

◆キーワード 生きる力、愛、自尊心、ともだち

◆時間 12分

◆あらすじ

パラダイス行きのバスを待っていると語りかけてくる。6つのテーマ「自分を好きになる」「愛のエネルギー」「しあわせの素」「あたらしい自分」「通じあうこと」「変化すること」について、生きる知恵となる言葉が次々と届く。「愛は素晴らしく大きな力、いくらつかってもけつてへらないつよい力」「自分のことをすきになれないのなら誰があなたを好きになってくれるのでしょうか」。人生はパラダイスを探しに行くのではなく、今生きているこの時をパラダイスにすればよい、ということに気づかせてくれる。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

人は皆パラダイスを探している。パラダイスにするための考え方、く生きるヒントが、6つのテーマに沿って書かれている。折に触れ、気になる箇所を読んでほしい。今、最も必要とする言葉に出会えたらう。

ハリネズミと金貨

作：ウラジミール・オルロフ 絵：ヴァレンチン・オリシヴァング 訳：田中 潔

借成社 2003年11月発行

◆カテゴリー 「つながり」

◆キーワード 思いやり、つながり

◆時間 8分

◆あらすじ

ハリネズミのおじいさんは、森の小道で金貨を見つけます。年を取って冬ごもりの支度も大変になってきたので、この金貨で必要なものを買おうと考えます。その途中で出会った動物たちが物を分けてくれたり、作ってくれたりします。さらには、「その金貨は他の物を買うためにとっておきなよ」と言います。動物たちの好意ですっかり冬支度が整ったおじいさんは、金貨を拾った場所に置いて帰ります。誰かの役に立つようにと…。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

お互いに寄り添い、助け合う関係がとても素敵です。生きるために必要なもの、食べるものや生活用品は当然なくてはならないものです。しかし、それだけでよいのでしょうか。生きていけるのでしょうか。「大切なもの」とは何かを教えてくれる作品です。また、ハリネズミの「必要なもの以外はいらない」というメッセージも忘れてはならない言葉です。読後、心がほっこりします。

ぴかぴかぶつん

作・絵：川端 誠

BL出版 1997年11月発行

◆カテゴリー 「自然からの学び」

◆キーワード 自然界、平和

◆時間 5分

◆あらすじ

それは、生命も芽生えぬはるか昔のこと。風に吹かれて水に流れて砂粒たちは、集まっては散り、散っては集まった。一つ二つと進んで行き、十になる時、石になる。石が増え岩になる。やがて岩に草が生え、木が繁り様々な生き物が集まり岩山になる。花が咲き、鳥が鳴き、山の奥の平和が壊れ、突然生き物が追い出され、戦になる。無益な争いが続き、とどめの罰が当たる。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

昔からどんな小さなものにも生命が有ると考えられてきた。その哲学は、自然界にも通じる。大切にすれば良い方向に進むが、間違えば取り返しのつかない事になる。自然界から私達の暮らす現在まで、生命の物語を分かりやすく、また絵が美しいので、この本をお薦めします。

39

ふしぎなともだち

作・絵：たじまゆきひこ

くもん出版 2014年11月発行

◆カテゴリ 「相互理解」

◆キーワード 自閉症、相互理解

◆時間 9分

◆あらすじ

小学2年生の時に小島に引っ越してきたおおたにゆうすけ君は、自閉症の「やっくん」と知り合います。先生や級友がやっくんと自然体で接し、手助けしていることに驚きます。やがて、ゆうすけ君もやっくんと友達の一員として関心を持つようになり、付き合い方を学んでいきます。多動や独り言も「副作用のなくすり」と認めていきます。大人になり、同じ町で働くことになった二人は、会話はなくても心が分かり合える友だちです。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

ちょっと変だけど友達だよ。やっくんの違いを認め、受け入れる優しい人間関係が描かれています。子どもの時期だからこそ、障害者に対して関心を持ち、付き合い方を学ぶ必要があるのではないのでしょうか。そんな子どもたちが大人になる頃、自閉症や障害を持った人を理解し、受け入れる社会が実現できるのではないのでしょうか。この作品はそんな思いを抱かせてくれます。

40

ふたりはともだち

作・絵：アーノルド・ロベール 訳：三木 卓

文化出版局 1972年11月発行

◆カテゴリ 「つながり」

◆キーワード 信頼、絆、思いやり

◆時間 5分×5冊

◆あらすじ

かえる君が、病気になり、がま君が心配して、がま君のベッドに、かえる君を休ませました。かえる君のためにお話をしようとするのですが、逆立ちをしたり、歩き回ったり、いろんなことをしても、お話が思いつかず、最後には頭を壁に打ちつけ、がま君は具合が悪くなってしまいました。かえる君は逆に、がま君をベッドに寝かせてお話を始めました。がま君がお話をしようとした物語でした(「おはなし」より)。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

熱い友情の物語をオムニバス形式で、五つの話で構成されています。「はるがきた」「おはなし」「なくしたぼたん」「すいえい」「おてがみ」という五つの話はいずれも、互いに思いやる二人のともだちの熱い気持ちが、ほのぼのと伝わってくる物語です。

41

ペツェッティーノ-じぶんをみつけたぶぶんひんのはなし

作・絵：レオ・レオニ 訳：谷川俊太郎

好学社 1978年4月発行

◆カテゴリ 「自己肯定感」

◆キーワード 自己肯定、自分探し

◆時間 10分

◆あらすじ

主人公はペツェッティーノという名のオレンジ色の四角い物体。ペツェッティーノはみんなに比べて小さいから、きっと自分は誰かの部品なのだと思っていた。そこで、それを確かめようと決心する。最初に出会った足の長い物体に自分は彼の部品ではないかと尋ねるが、違うと言われる。次々に出会った物に聞くが、皆違うと答える。最後に賢い物体に「こなごな島」に行くように言われ、山に登り下りするうちに自分も粉々になり自分も皆と同じように部品が集まってできていることに気づく。そして「ぼくはぼくなんだ」と大喜びで叫ぶ。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

自分に自信の持てない子ども、他人と比べてしまう子ども(いや大人もかもしれない)に是非届けたい、自分探しの話である。つつい他人と比べて、自分を劣っていると思いがちな思春期の子どもたち、あるいは大人にとっても、「自分は自分なんだ」という確信が持てたら、随分と生きやすくなるのではないだろうか。

42

ぼくのいのち

細谷亮太 絵：永井素子

岩崎書店 1999年6月発行

◆カテゴリ 「いのちの大切さ」

◆キーワード 命の尊さ、生きる力

◆時間 5分

◆あらすじ

夏休みに遊びに行った祖母の家のお蔵で見つけたアルバム。その中に髪の毛のない自分を見つける。医師を訪ねて自分が白血病だったことを知る。自分は治ったけれど、一緒に入院していた友達が亡くなった現実を知る。自分の病気を知り、病気と闘っていた友達のその後を知り、「命」の重みを感じた夏休みだった。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

健康に過ごしていると「いのち」は当たり前のもので軽く考えてしまう。しかし、自分に与えられた命から「いのち」の大切さを知り、自分以外の命にも想像力を働かせ、その隊冊差を感じてほしいと思い、選書した。

43

耳の聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ

作：ナンシー・チャーニン 絵：ジェズ・ツヤ 訳：斉藤 洋

光村教育図書 2016年10月発行

- ◆カテゴリ 「自己肯定感」「挑戦」
- ◆キーワード 胸を張って生きる、努力は報われる
- ◆時間 13分
- ◆あらすじ

耳の聞こえない少年が、大好きな野球を続け成長し、プロ野球の選手になりました。しかし、審判やコーチの声が聞こえない不便さに気づきます。彼は考えました。絵を描いて教えてもらおうと。それは、やがて身ぶりや手ぶりで伝える「サイン」へと進化し、すべての人のものになりました。

◆子どもの反応&シニア感想・選書の動機

どんな時も前を向いて、工夫や努力を忘れず、希望を失わなかったメジャーリーガー、ウィリアム・ホイの実話です。

44

もうぜったいうさちゃんってよばないで

作・絵：グレゴアール・ソロタレフ 訳：末松氷海子

リブリオ出版 2000年4月発行

- ◆カテゴリ 「自己肯定感」
- ◆キーワード 自尊心、モラトリアム
- ◆時間 9分
- ◆あらすじ

「うさちゃん」という愛称でなく、周囲の大人たちに本名の「ジャン」と呼んでほしい主人公は、「うさちゃん」と呼ばれなくなるために、悪い自分をアピールしようと銀行強盗をしでかす。警察につかまり、涙するが、刑務所の中で出会った自分より小さなウサギと大脱走を企てる。そして、おじいちゃんのところにかくまってもらうが、警官がこの事件を忘れるまでの長いながいあいだ、穴の中にかくれることになり…。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

非道徳的なめちゃくちゃな行動を「うさちゃん」という可愛いうさぎを用いて描いている。このテンポ、迫力、あきれられる展開は、絵本ならではの世界である。子ども扱いされたくない、自分を認めてほしいと思うあまり、短絡的な行動をしてしまう少年少女。そうならないためにはどうしたらよいか、心の奥にある思春期の葛藤を教育現場で考えてほしいと思い、選書した。

45

ヤクーバとライオン 1 勇気 2 信頼

作・絵：ティエリー・テデュー 訳：柳田邦夫

講談社 2008年3・7月発行

◆カテゴリー 「いのちの大切さ」「つながり」「自然からの学び」

◆キーワード 命、友情、信頼

◆時間 13分

◆あらすじ

アフリカのある村の物語。成長した少年が戦士になるための儀式は、ひとりでライオンを戦い倒すこと。少年ヤクーバは、狩り場でライオンと向かいあう。そして、重傷を負ったライオンの目は語りかけてくる。「お前には二つの道がある」と。ヤクーバは勇士の道を選ばず村に帰る。彼に与えられた仕事は、牛の世話であった。数年後、この地は干ばつに襲われる。そのとき、あのライオンは一族を引き連れヤクーバの村を襲う。お互いの任務と任務の壮絶な戦いが始まるが、それは自分が勝とうとしない見せかけの戦いだった。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

ライオンをひとりで倒すことで勇士になるという儀式を放棄するヤクーバが気づいたのは、「いのちの尊さ」であった。ヤクーバの牛を守る闘いも「いのち」に対する意識の高さだ。ヤクーバとライオンの見せかけの闘いは信頼度の確かめ合いであり、ふたりの絆の証でもある。極め付きは最後のページで、そこで読者に理解の深さを問いかけてくる。聞き手となった中学生は、絵の迫力と骨太な言葉によって緊張の空気に包まれるが、読後に生徒の顔がホッと緩む。

46

ゆらゆらばしのうえで

作：きむらゆういち 絵：はたこうしろう

福音館書店 2003年10月発行

◆カテゴリー 「つながり」「挑戦」

◆キーワード 友情、勇気

◆時間 10分

◆あらすじ

長雨に痛めつけられた一本の丸太。追われるうさぎと追いかけるきつねが、その丸太の真ん中で動けなくなる。ゆらゆら丸太の上で、夜を明かす二匹は、そのうち二人の力がなければ助からないことに気付く。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

敵同士であった二匹が危機に接したとき、それが絆となって、互いに思いやるように。その場面は、胸に迫るものがあります。最後は、落語の「落ち」のようでホッとします。緊張していた子どもたちも、思わず笑ってしまいます。

47

ラチとらいおん

作・絵：マローク・ベロニカ 訳：とくながやすもと

福音館書店 1965年7月発行

- ◆カテゴリ 「自己肯定感」「挑戦」
- ◆キーワード 生きる力、自尊心、自己肯定、自信
- ◆時間 7分
- ◆あらすじ

ラチはとても弱虫、泣き虫で皆に馬鹿にされ、いつも絵本を見てばかり。ある朝、絵本の中の大好きなライオンがいた。でも、小さいので、ラチは馬鹿にした。ところが、そのライオンに相撲で負けた。強くしてもらうため、ライオンと毎朝体操をした。ライオンがついているので、怖い犬にもまけず、暗い部屋にも入れるようになる。ラチはどんどん強くなりボールをとられた友達の為に取った相手に向かっていけるようになった。ポケットにライオンがついているので大丈夫と思っていたが、それはなんとリンゴだった。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

小さな自信のない子どもがライオンの力を借りて、体も心も鍛えられ勇気を身につけるようになる、という物語。しかし、いつしかライオンの力ではなく、それが自分の力であることに気づきます。子どもたちに自信を持ってもらいたいと思い、選書しました。

48

ろくべえまってるよ

作：灰谷健次郎 絵：長 新太

文研出版 2005年2月発行

- ◆カテゴリ 「つながり」「挑戦」
- ◆キーワード 友達、絆
- ◆時間 7分
- ◆あらすじ

穴に落ちてしまった子犬を小さな子供達がいろいろ知恵を出し合い、助け出す、というハラハラ、ドキドキの物語です。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

どんな小さな命でも助けたい、という一途な気持ちを、こんな小さな子どもでも持っている、ということを伝えています。大人も、かつては持っていたはずです。大人も一緒に子どもたちにエールを送ろう。「大人も子どももみんなガンバレ!!」とってあげたくなります。

49

ロバのロバちゃん

作・絵：ロジャー・デュボアザン 訳：くりやがわけいこ

偕成社 1978年11月発行

◆カテゴリー 「自己肯定感」

◆キーワード 自尊心、ありのまま

◆時間 10分

◆あらすじ

ロバのロバちゃんはかわいいロバです。仲良しの友達も大勢いて、村一番のやさしいご主人で良いことばかりです。でも、短い耳の馬のパットくんを見て、自分の耳が長くて格好悪いと思います。食欲もなくし、思い悩み、友達に相談すると、誰もが皆自分の耳が一番だとアドバイスしてくれます。耳をけがして、そのことに気づきます。雀のダニエルくんは、「君は誰でもないロバのロバちゃんだ、耳をピンとたてていけよ」と言って飛び立ちます。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

これはロジャー・デュボアザンの初期の作品で、動物たちの日々の表情や、うま、いぬ、ひつじ、やぎ、うし、ぶたの耳の変化が、温かみのある絵で分かり易く描かれていて楽しめます。ロバのロバちゃんが長い耳に悩んで、食欲もなくし、友達に相談し、アドバイスをまねていろいろな動物の体験をするものの、自身を傷つけて痛い思いをする場面では、やっぱり自分のあるがままが一番いい、ということを教えてください。

50

わすれられないおくりもの

作・絵：スーザン・バーレイ 訳：小川仁央

評論社 1986年10月発行

◆カテゴリー 「つながり」

◆キーワード 命、生き方、つながり

◆時間 15分

◆あらすじ

賢くて物知りなアナグマは、いつも皆から頼りにされていました。しかし、歳を取ったアナグマは自分の死を悟ります。そして、「長いトンネルのむこうに行くよ さようなら」という手紙を残し旅立って行きます。残された仲間たちは悲しみでいっぱいになりますが、春になると、アナグマが残してくれた沢山の思い出を語り合えるようになっていた。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

目に見える形としては残らないけれど、心に残っていることは、消えることはない。逝く者と残された者の両者の思いが伝わってくる絵本である。悲しみも時間が解決してくれるものであり、思い出を胸にしっかりと前を向いて生きてゆこうと感じてもらいたい。

りぷりんとインストラクターが

お薦めする

「いのち・つながり」をテーマにした絵本

いのちをいただく

原案：坂本善喜 文：内田美智子 監修：佐藤剛史 絵：諸江和美

西日本新聞社 2009年5月発行

◆カテゴリー 「いのちの大切さ」

◆キーワード 命の尊さ、職業理解、親子

◆時間 15分

◆あらすじ

しのぶくんのお父さんは、牛の命を解く食肉センターに勤めています。「いつかやめよう」と思いながら働いていました。しのぶくんが命を解く仕事を恥ずかしいと思っている時、先生はお父さんの仕事がなかったら誰も肉を食べられないし、命を預かる仕事だと教えます。ある日、センターに一頭の牛が運ばれ、お父さんは躊躇していました。その姿にしのぶくんは、「心ない人がしたら牛が苦しむけん。おとうさんがしてやんなっせ」と言いました。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

実話をもとに命を解く人、命を解かれる動物、動物を愛情込めて育てる人の3様の立場で物語を紡ぎ、命の大切さを伝えます。食べることは命を奪うこと。その理解を深めることが生きることなのだ気付かされます。「命を解く仕事で一番大切なことは苦しめないように急所をはずすこと」の一文に納得。牛が命を解かれるときに涙を流すという場面は命の大切さが凝縮されて心に響きます。

おかあさんはね

作：エイミー・クラウク・ローゼンタール 絵：トム・リヒテンヘルド 訳：高橋久美子

マイクロマガジン社 2017年5月発行

◆カテゴリー 「つながり」「自己肯定感」

◆キーワード みまもり

◆時間 5分

◆あらすじ

母親は、生まれた子どものためにたくさんの願い事をします。「ないたりせずにわらっていられますように」「どうぞといえるやさしい子になりますように」「おかあさんのそばでわらっていられますように」「失敗したらもう一度頑張ればいい。難しいことだっていつかできるようになる」「急がずに、ゆっくり大人になってくれますように」。そして、いつまでもどんな時でもお母さんは見守っているのです。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

母親の愛情あふれる絵本。母になって必ず思うことが、優しい言葉と暖かな絵であらわされています。忙しく子育てをしていたころを思い出し、反省させられることもある一冊です。

オレ、カエルやめる

作：デヴ・ペティ 絵：マイク・ポルト 訳：こばやしけんたろう
マイクロマガジン社 2017年11月発行

◆カテゴリー 「つながり」「自己肯定」

◆キーワード ささえ

◆時間 5分

◆あらすじ

ある日、カエルの息子が言った。「あのさ、おとうさん。オレ、ネコになることにするや」。父さんがエルは驚いて答える。「おまえはネコにはなれないよ」。息子は、カエルは濡れてるし、ヌルヌルで虫ばかり食べるからイヤだ、かわいくてフサフサの動物になりたいと言う。父親は悩みを聞き、諭す。が、息子は納得しない。そこへオオカミが現れ、フサフサの動物たちは大好物だが、食べられないものが1つだけあると言う。それは「カエル」。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

明るく子供らしい息子と、話を聞いてくれる父親。シンプルな会話があたたかく、家族愛が伝わります。

教室はまちがうところだ

作：蒔田晋治 絵：長谷川知子
子どもの未来社 2004年8月発行

◆カテゴリー 「自己肯定感」「挑戦」

◆キーワード 学校、自信、勇気、教育

◆時間 6分

◆あらすじ

先生が子どもたちに「教室はまちがうところだ／みんなどしどし手をあげて／まちがった意見を言おうじゃないか」と言いました。さらに先生は、いつも正しい答えを出そうとするから間違ったらどうしよう不安になって怖くなる、間違っただけいいじゃないかという発言を促し、恐る恐る子どもをさしました。立ち上がると同時に言葉を忘れてしまった子どもに向かい、優しい言葉でそれで良いのだとほめたのです。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

子どもたちは、学校に入学する、進級して学年が上がる、大好きな担任が変わる、仲良しの友だちとクラス別れする、いじめを受けるなどの体験から心を不安定にさせ、問題行動に発展してしまうことがある。そんな時、「間違ってもいいよ」「言いたいことを言おう」「みんなで意見を出そう」と言ってくれたら、その心はどんなに救われることだろう。クラスが楽しければ、子どもたちは学校も好きになるはず。先生と子どもたちの交流を生き生きと描いた作品です。

こどもってね・・・

作・絵：ベアトリーチェ・アレマーニャ 訳：みやがわえりこ
きじとら出版 2017年9月発行

◆カテゴリ 「自己肯定」

◆キーワード そのままで

◆時間 7分

◆あらすじ

「こどもってね、いつか大人になる小さなひと」。子どものスポンジのような吸収力、そして子どもだから許されることがある。大人になったらできることと、大人だからこそ迷うこと。「こどもってね、早く大人になりたいんだ」、大人になることを想像する子どもたち。でも、急がなくていいんじゃない。ゆっくり、ゆっくり大人になればいい。そして大人は、それを優しく見守ってあげればいい。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

見開き左側に文章と右側に子どもの大きな顔。一人一人の愛すべき個性が豊かに描かれている。各頁の子どもたちが今にも動きそうな文章表現が魅力的な一冊である。

ストライプ たいへん!しまもようになっちゃった

作・絵：デヴィット・シャノン 訳：清水奈緒子
セーラー出版 1999年6月発行

◆カテゴリ 「自己肯定感」「相互理解」

◆キーワード 自分のままで

◆時間 12分

◆あらすじ

カミラ・クリームは、人の目ばかり気にしている女の子。今日も、新学期の初日に何を着ていこうか迷っている。すると突然、カミラの身体は色とりどりのストライプ模様になってしまった。母親は医者を呼びけれど、症状はひどくなるばかり。学校では友だちから大笑いされ、校長先生からは学校を休むように電話が入る。あらゆる職業の人が治療にやってくるが、手の付けようがない。そこへ一人の小さなおばあさんが現れて…。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

人の目が気になり、みんなと一緒にないと落ち着かない、流され自分自身を見失う年頃にぴったり。すべての人が思い当たる絵本です。

はずかしがりやのミリアム

作・絵：ロール・モンルブ 訳：マイヤ・バレー

ひさかたチャイルド 2012年1月発行

◆カテゴリ 「自己肯定感」「相互理解」

◆キーワード いじめ、勇気、友だち

◆時間 8分

◆あらすじ

ミリアムは誰かに名前を呼ばれただけでトマトみたいに顔が真っ赤になってしまう女の子。学校の友だちは「トマトっこ」とからかい遊びません。ある日、詩を暗唱することになったミリアムにクラスみんなはからかいだしました。先生は、「彼女の名前はミ・リ・ア・ムという名前なの！みんなも恥ずかしいときは顔が赤くなるでしょう」と厳しい声で叱りました。ミリアムは、心を込めて詩の暗唱をはじめました…。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

恥ずかしがり屋の女の子を主人公に、いじめがちよつとした出来事から始まり、弱点を見つけた一人のいじめが集団いじめに発展してしまう子どもの世界を描いた絵本。人はそれぞれに個性があることや、人の嫌がることをする気持ち、される気持ちをじっくりと子どもに考えさせるには、賢明な大人の関わりが重要である。そんな先生の姿を毅然と描くことで、子どもに他人の痛みや苦しみを考えさせる。心育ての本である。

ほんとうのことをいってもいいの？

作：パトリス・C・マキサク 絵：ジゼル・ポター 訳：ふくもとゆきこ

BL出版 2002年4月発行

◆カテゴリ 「つながり」「自己肯定感」

◆キーワード 親子、相談できる人、思いやり

◆時間 14分

◆あらすじ

ビリーは、友だちと遊びたくて馬にえさもやらずに出かけようとしてました。ママに「えさはやったの」と聞かれた時、咄嗟に「やったよ」と初めての嘘をつきました。心がざわざわとし苦しくなり、決して嘘はつかない、本当のことだけを言おうと決心します。ところが、何でも本当の事を言ったばかりに仲良しの友だちを何人も傷つけ、仲間外れにされてしまいます。それはもう苦しくてつらくて、とうとうママに打ち明けました…。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

人は、本当のことを言わなくてもいい時に本当のことを言ってしまう。言葉が悪かったり、意地悪で言ってしまった。これまで築いてきた友だちとの関係が、ストレートに本当のことを言ったばかりに壊れ、友だちを失う少女の苦しみを丁寧に描いた絵本です。「思いやりをもって本当のことを言うのは正しこと」と励ますママの言葉が光ります。困った時に身近に相談できる魅力のある大人は必ずいるはず、相談してごらんと絵本を通して伝えたい。

59

クマと森のピアノ

作・絵：デヴィット・リッチフィールド 訳：俵 万智

ポプラ社 2017年10月発行

◆カテゴリ 「つながり」「居場所」

◆キーワード つながり

◆時間 10分

◆あらすじ

こぐまのブラウンは、森の中で「へんてこなもの」に出会いました。気になって思わずさわってみると、「タン」とこれまで聞いたことのない音がしました。ブラウンは美しい音に夢中になり、森の仲間たちもうっとり聞いています。その演奏を人間の親子が聞いていました。「へんてこなもの」の名前は「ピアノ」。そして親子は、ブラウンを音楽あふれる都会へ誘います。夢と仲間の間でゆれるブラウン。ついに彼は決意します。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

華やかな世界で夢をかなえ、多くのものを手に入れても、心の中までは埋められない。自分を支えてくれる仲間の大切さに気付かされる絵本です。

60

しっばいなんかこわくない！

作：アンドレア・ベイティー 絵：デヴィット・ロバーツ 訳：かとうりつこ

絵本塾出版 2017年6月発行

◆カテゴリ 「つながり」「自己肯定」

◆キーワード ささえ

◆時間 8分

◆あらすじ

エンジニアになることを夢見るロージーは小学生。屋間ゴミ箱から材料をさがし、誰にも見えない場所でこっそりとメカづくり。なぜ、こっそりなのか？って、それは、今までにたくさんのメカをつくっては、みんなにプレゼントしてみたけれど、どれもこれも大笑いされるばかりだったから。すっかり自信をなくしたロージーは、エンジニアになる夢を心の中だけにしまい込んでしまったのです。そこへ現れたのが、飛行機好きのおおおばさん。そして、ロージーが次々に作ったものは…。

◆子どもの反応&シニアの感想・選書の動機

自分を勇気づけ、見守ってくれている人がいるということ、失敗も成功も全部含めて丸ごと愛してくれる人が必ずいるということを伝えてくれる一冊です。